

平成 25 年度 千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会
専門部会委員

1 中学校関係者（5名）

氏名	勤務校	職名	備考
増澤 保明	千葉市立高洲第二中学校	校長	
森 秀夫	茂原市立南中学校	教頭	
小川 好信	千葉市立蘇我中学校	教頭	
岩波 浩之	旭市立海上中学校	教諭	
吉田 雅一	木更津市立富来田中学校	教諭	

2 高等学校関係者（5名）

氏名	勤務校	職名	備考
森谷 英一	県立東金高等学校	校長	
松村 智明	県立小金高等学校	教頭	
小安 由男	県立岬高等学校	教頭	
増子 雅代	県立千葉商業高等学校	教諭	
根本 巖	県立匝瑳高等学校	教諭	

平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会

第1回報告

- 1 日時 平成25年7月2日(火) 午後1時30分から午後4時30分まで
- 2 会場 千葉県教育会館 本館3階 301号室
- 3 委員 増澤保明委員, 森秀夫委員, 小川好信委員, 岩波浩之委員, 吉田雅一委員
森谷英一委員, 松村智明委員, 小安由男委員, 増子雅代委員, 根本巖委員

4 内容

(1) 開会のことば

(2) 県教育委員会あいさつ

(3) 委員の紹介

(4) 専門部会の設置について

主査を森谷委員, 副主査を増澤委員とした。

(5) 報告

平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会第1回の協議内容について

(6) 協議

ア 千葉県公立高等学校入学者選抜制度のアンケート結果について

アンケート結果について, 詳しく分析するとともに, 現行の入学者選抜の在り方について検証する。

イ その他

専門部会の開催日程を次のとおりとした。

第2回: 8月7日(水), 第3回: 9月5日(木), 第4回: 9月20日(金)

(7) 閉会のことば

※協議内容については, 別紙のとおり。

別紙

千葉県公立高等学校入学者選抜制度のアンケート結果について

「選抜制度について」の（１）～（３）の意見は、次のとおりである。

（１）受検機会（選抜の回数）について

＜「複数回の受検があったほうがよいとする意見」について＞

- ①入学者選抜の時期は体調管理が難しいので、選抜は複数回あるとよい。
- ②前期選抜は、特色ある入学者選抜を継承しているので、部活動の成果をより重視した選抜方法を考えてみてはどうか。
- ③志願できる学区が広いので、複数回の受検機会があると、志望校選択の幅が広がる。
- ④家庭の事情により公立高校だけを志願する生徒にとっては、選抜は複数回あるとよい。
- ⑤前期選抜では希望の高校を、後期選抜では合格できる高校を受検する傾向があり、２回の選抜は定着していると思われる。
- ⑥郡部の中学校において、前期選抜で不合格の生徒は、後期選抜でも同じ高校を受検することが多いので、２回の選抜があることについて、志望校選択の幅が広がるというよりは受検機会が多いと考えている。

＜「前後期を一本化して１回の受検がよいとする意見」について＞

- ①前期後期ともに学力検査を実施し、同じような検査内容なので、１回の選抜でよい。
- ②複数回の選抜を行うと選抜に関わる期間が長くなるので、多くの高校は、授業時数を確保するため１回の選抜を望んでいる。
- ③中学校では、私学の検査日も考慮し、１月下旬までには教科書の内容を終わらせるよう努めているが、一本化して検査日が遅くなれば、教科書の扱い方が変わるのではないかと。
- ④一本化しても私学の入学者選抜との関係から、中学校では学級内に私学の合格者と公立の入学者選抜の受検者が混在することを踏まえた指導をする必要が出てくるとと思われる。

＜その他＞

- ①前期選抜発表から後期選抜受付までの時間が今まで以上に取れば、前期選抜で不合格の生徒が気持ちを切り替え、後期選抜に臨むことができる。
- ②生徒や保護者が、複数回の受検機会を望んでいることを尊重するべきである。

(2) 現行の入学者選抜の理念である「1 特色ある入学者選抜の理念の継承」と「2 複数回の受検機会の保証」に対する意見

- ① 中学校で部活動に取り組んできた生徒は、高校入学後も努力し学業等の向上が見られるので、特色ある入学者選抜の理念を継承した選抜は必要である。
- ② 前期後期それぞれの選抜の中で、複数の選抜方法を用いることはできないか。

(3) 現行の入学者選抜の課題等に対する意見

- ① 新しい学習指導要領で学習する内容が多くなったため、私学の入試や前期選抜までに教科書の内容を終わらせることを考えなければならない。
- ② 合格した生徒とこの後受検する生徒が学級内に混在していても、受検を控えている生徒に配慮するよう学級全体を指導をしているので、指導に困難な面は感じない。
- ③ 「学校の教育活動への支障」とは、どのようなことか。受け取る側によって、その内容は違うのではないか。
- ④ 2回の選抜を続けていくなれば、前期選抜と後期選抜の趣旨や違いをきちんと周知すべきである。
- ⑤ 「前期選抜」「後期選抜」という名称により、一つの種類の選抜が前半と後半に分かれ、2回のチャンスがあると受け取られている。
- ⑥ 特色ある入学者選抜では、自己を見つめ自分の進路を考えさせるという進路指導ができたので、その理念を引き継ぐことは必要である。
- ⑦ 前期選抜に学力検査を導入したことで、高校に入るには勉強しなければいけないという意識が高まり、学習意欲を高めることができている。
- ⑧ 前期選抜では、その選抜枠を少なく設定し、後期選抜の選抜枠を多くするとよい。
- ⑨ 前期選抜、後期選抜ともに学力検査を課しているので、高校には判定の資料として学力検査の成績をより重視すればよいという考えがある。
- ⑩ 学力検査の教科数について、検討していく必要がある。
- ⑪ 高校では、選抜業務と授業を並行して行うので、選抜業務を負担に感じる教員がいる。
- ⑫ 入学者選抜制度は、定時制の課程についても十分配慮する必要がある。